

令和元年度兵庫県・播磨広域合同防災訓練実施!

自衛隊、消防など約70機関、約1500人が参加



たつの市 揖保川河川敷に集う関係機関



発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷 義雄
題字 井戸 知事

無事故への
構え一分の
隙も無く

令和元年九月一日(日)、兵庫県・播磨広域合同防災訓練を実施しました。県では毎年、地域の市町と共催し、合同訓練を実施しています。訓練の詳細については、次のとおりです。

一 訓練の目的
山崎断層帯を震源とする直下型大規模地震とその後の風水害の発生を想定し、関係機関、団体、自主防災組織等が相互に連携した実動訓練に加え、住民参加型の救出救助訓練や展示、体験、啓発活動を通じ、県民の防災意識の更なる高揚を図り、地域防災力の向上に資する。

二 実施場所

- (一) たつの市 揖保川左岸 千鳥ヶ浜河川敷(メイン会場)
- (二) たつの市 龍野体育館 (一般避難所訓練)
- (三) たつの市 社会福祉法人 人円勝会(福祉避難所訓練)
- (四) たつの市 室津漁港 (物資海上搬送訓練)
- (五) 宍粟市 山崎スポーツセンター(孤立集落救出救助訓練)
- (六) 太子町 社会福祉法人 大和福祉会(福祉避難所訓練)

三 想定

山崎断層帯地震の発生及びその後の風水害による被害

四 訓練の特徴

- (一) 訓練内容の多様化
- 孤立集落を想定した救出救助、物資搬送訓練

- 風水害被害を想定した水防訓練
- マイ避難カードを活用した避難訓練
- 船舶を使用した物資海上搬送訓練
- ドローンの活用(医療物資搬送、映像配信)
- 複数の救助機関が連携した倒壊家屋等からの救出救助訓練
- 身近な用具を用いた住民参加型の救出救助訓練
- (二) 多会場連携型の訓練
- メイン会場以外に宍粟市では孤立集落救出救助訓練を、太子町では福祉避難所設置運営訓練を実施
- (三) 地元高校生の訓練参加
- 龍野高校放送部員による訓練進行のアナウンス
- 龍野北高校生による負傷者役等のボランティア参加
- (四) 防災相互通信波用無線の活用
- 災害現場で組織の枠を超えた通信が出来る「防災相互通信波用無線」の活用
- (五) 体験型防災アトラクションの導入
- 防災知識や自助、共助を学ぶことが出来る体験型アトラクションの導入

五 重点訓練内容

- (一) 実動訓練
- 被害状況(上空)調査訓練
- 道路啓開訓練
- 救出救助(孤立者、倒壊家屋、車両)訓練
- 水防、越水対策訓練

- 救護所設置運営訓練
- 負傷者広域搬送訓練
- (二) 災害時要援護者支援訓練
- 災害時要援護者避難訓練
- 福祉避難所(福祉避難スペース)開設・運営訓練
- (三) 避難所開設・運営訓練
- プールの水を活用した生活用水確保訓練
- 外国人避難所設置運営訓練
- 避難所物資搬送訓練
- ペット同行避難訓練
- ボランティアアセンタリ設置運営訓練
- 炊き出し訓練
- (四) 広域物資搬送訓練
- 広域防災拠点からの物資搬送訓練
- 民間事業者による避難所までの物資搬送訓練
- (五) その他
- 地震の揺れ体験(起震車)
- 災害対応車両等展示
- 展示ブース(室内安全対策等)

六 主催

兵庫県・播磨広域合同防災訓練実行委員会
(兵庫県、播磨広域連携協議会(中播磨・西播磨管

七 参加機関・団体

兵庫県、たつの市、宍粟市、太子町、播磨広域連携協議会、西はりま消防組合、姫路市消防局、赤穂市消防本部、三木市消防本部、自衛隊、海上保安本部、神戸地方气象台、近畿地方整備局、兵庫県警察、日本赤十字社、兵庫県災害医療センター、医療関係機関(DMAT、JMAT)、兵庫県医師会、兵庫県看護協会、兵庫県歯科医師会、兵庫県歯科衛生士会、兵庫県薬剤師会、兵庫県臨床検査技師会、兵庫JRA T、兵庫県国際交流協会、ひょうごボランティアプラザ、ひょうご災害ボランティアシニアクラブ、兵庫県栄養士会、兵庫県防災士会、兵庫県トラック協会、ヤマト運輸(株)、日本レスキュー協会、たつの市社会福祉協議会、龍野ろうあ協会、たつの市身体障害者協会、たつの市連合自治会、たつの市連合婦人会、社会福祉法人 円勝会、社会福祉法人 大和福祉会、兵庫県石油協同組合、神戸学院大学、兵庫県立龍野高校、兵庫県立龍野北高校、ライフライン関係機関、自主防災組織等



ヘリによる救出訓練

(次ページに写真を掲載)

たつの市 揖保川河川敷 (メイン会場)



車両からの救出訓練



ヘリによる救出訓練



倒壊家屋からの救助訓練



地震の揺れ体験 (起震車)



救助車両乗車体験



土のう訓練

たつの市 龍野体育館



エコ検査を受ける井戸知事

宍粟市 山崎スポーツセンター



消防車放水



通訳スタッフによる外国人避難者対応訓練



ダンボールベッド体験



煙体験ハウス



車両救出訓練



日本赤十字社による救急法ミニ講習



3日分の非常食の展示



炊き出し訓練



訓練風景 「操法開始直前」

目指せ 「全国優勝」

芦屋市女性消防団 バーディーズ

芦屋市消防団の女性消防団員チーム「バーディーズ」は、阪神・淡路大震災を経験した被災市として防火・防災広報を広く行うために結成されました。普段の活動は、男性団員とは異なり、現場活動は実施せず、パネルシアターを使用した幼児向けの火災予防広

報活動や普通救命講習会での指導等、地域に密着した活動を行っています。

そのような中、私たちは令和元年十一月一三日に神奈川県横浜市で開催される全国女性消防操法大会に兵庫県代表として出場することが決まっております。今年度の活動は操法訓練を中心に取り組んでいます。

約二年前に大会出場が決まり、訓練を初めてから、本番まであと二か月と迫りました。

振り返れば、訓練当初は何もかもが経験のないところから始まり、消防特有の訓練礼式というものを理解もしていなかったため、整列するにも時間がかかり、間隔もバラバラでメリハリが全くありませんでした。そのため、まずは訓練礼式の基本を学ぶことから始め、各番手に指導員が付くかたちで訓練を開始しました。

最初の数か月間は基本動作の訓練ばかり行っていました。日に日に規律ある手の上げ下げや、向くタイミングなどが揃うようになり、またチームとして団結力が高まっていくのを感じました。そして、訓練を継続していくための気構えや大会に出場する時に自分たちはどうなっていたか、自分たちのあるべき姿等、今後について話し合う機



訓練風景 「放水時」

会を作り、そこで「全国優勝」を目指すことを団員みんなで決めました。

そして、実践的な消防操法訓練に入りましたが、先に述べたとおり全くのゼロからのスタートであり、ポンプやホースにも、もちろん触れたことがなかったので大きな不安がありました。

しかし、指導員の方々、男性消防団員の方々にポンプの構造から動かし方、ホースの延長方法など多くの知識をひとつひとつ丁寧に教えていただきました。その時、感じたことは、私たちだけで訓練に取り組んでいるのではなく、たくさんの方々の協力があるからこそ、操法訓練に専念して臨むことができているという

感謝の気持ちでした。だからその気持ちに伝えるためにも必ず優勝し、今まで支援していただいたみんなに恩返しをしたいという思いが強くなり生まれました。

いよいよ訓練も大詰めになって、訓練回数も週三回休まず実施しており、疲れもピークに達していますが、団員同士で励ましあい、改善点などアドバイスしあって切磋琢磨し、完成度を高めています。大会が近づいてくるにつれ、焦る気持ちが出てきたり、操法に懸ける熱い思いが、時

にはぶつかれることもありました。しかし、それはみんなが「絶対優勝する」という強い気持ちで、真摯に訓練に向き合っているからこそだと実感し、訓練を通してさらに深い絆で結ばれたと感じました。

私たちは普段、家事や子育てをしながら、仕事もしながらの忙しい日々ではありますが、大会本番まであと少し、できる限りのことをして大会当日は「優勝」を目指して悔いのないよう力を出し切りたいと思います。



全国女性消防操法大会激励会にて



阪神・淡路大震災二五周年記念事業 兵庫県女性消防団員活性化大会開催！

(公財)兵庫県消防協会事務局

令和元年八月二十五日(日)、兵庫県教育会館ラッセホール(神戸市中央区)にて「阪神・淡路大震災二五周年記念事業 兵庫県女性消防団員活性化大会」が兵庫県と兵庫県消防協会の共催で開催されました。

消防団員の皆さまは、日頃からそれぞれの職業(会社員、自営業、公務員、大学生、主婦など)に従事しながら、有事の際は消防団員として活動されています。

兵庫県には四二、一五二名の消防団員の皆さまが活躍されていますが、その内五二八名(平成三〇年四月一日現在)が女性消防団員の皆さまです。女性消防団員として、女性ならではの役割や視点を有する活動をはじめ、その活躍の場は今後さらに拡大するものと期待されています。

本大会は、兵庫県内の女性団員等が一堂に集い、活動事例の発表や講演を通じて、女性の消防団活動の一層の充実を図るとともに女性団員の増加を目指すものです。

大会当日は厳しい暑さにも関わらず、県内女性消防団員や各消防団幹部等関係者約三五〇名が集い、岸谷兵庫消防協会長、金澤兵庫副知事の挨拶に続き、県内の女性消

防団員の皆さまが活動事例発表や研修報告を行いました。

まず始めに神戸市長田消防団が「長田救命体操」を披露しました。オリジナルの曲と振り付けで、楽しく心肺蘇生法を覚えることができるように作られています。また、神戸市灘消防団は地域住民と共に作成したオリジナル防災ソングを披露しました。どちらもとても覚えやすく、子どもから大人まで楽しく防災に取り組みむことができる内容でした。

次に、小野市消防団は、小野市独自の避難所運営ゲーム(HUG)への取り組みを発表しました。小野市消防団ではHUGを、研修を受けた方がガイド役として避難所運営を主導し活躍していきけるようにという意味を込め、「避難所運営ガイド研修」と独自にネーミングし、市民とともに防災に取り組んでいることなどを発表しました。

川西市消防団は女性消防団結成二五周年をむかえました。その二五周年の歩みと共に日頃の活動内容について発表し、最後は二五周年を記念して作成された防災ソングを振り付きで披露しました。

三田市消防団の樽口班長は今年二月に日本消防協会で実施された「幹部候補中央特別研修女性の部」へ参加したことを報告しました。カリキュラムの内容が充実していることはもちろんのこと、全国から集まった女性消防団員同士、横の繋がりを作ることができ、非常に刺激を受けた三日間であったそうです。参加した皆さまからも、「参加してみたい」等の感想も多くあり、この研修会へたくさんの消防団員の皆さまが、意欲的に参加の意思表示をしてくださることを期待しております。

そしてプログラムの最後では、日本消防協会から元東京消防庁丸の内消防署長の谷口由美子氏が講演をしてくださいました。谷口氏は、過去の災害や経験から変わってきたことなど、具体的に分かりやすく語ってください、避難所運営をはじめとする災害対策にしても、団員確保等の広報活動にしても、女性の目線が不可欠であることを教えてくださいました。

以上で全ての発表及び講演が終了し、最後は尼崎市消防団濱田百合子部長の閉会のことばで大会は幕を閉じました。参加した女性消防団員の皆さまからは、「分かりやすく

市民へ防災を伝える方法として、歌やダンスは効果的だと感じた」「楽しい雰囲気覚えやすい」「団員自ら地域に向けて活動されていることを知り、自分たちにできることがないか考えるきっかけとなった」などの感想がありました。男性の参加者からも「防火だけでなく、防災も考えて活動されている点が素晴らしい」「避難所という難しい内容を、女性目線で伝える方法が実践的だ」「このような大会は、他の団と交流ができて良い」というような感想がありました。

この度の大会で、女性消防団員だけではなく、男性消防団幹部の皆さまも女性消防団員の採用の有無に関わらず、その役割の重要性や可能性を再認識していただくことができました。

今後の活動がさらに充実し、兵庫の消防団全体の活性化に繋がることを期待しています。最後になりましたが、この度の大会で活動事例発表及び研修報告、講演をしてくださいました関係者の皆さま、本大会のプログラムについて

は、以下のとおりです。

| プログラム | |
|-------|--|
| 12:00 | 開場 |
| 12:30 | 開会 |
| 12:32 | 挨拶 岸谷 義雄氏 (公財)兵庫県消防協会会長 金澤 和夫氏 (兵庫副知事) |
| 12:45 | 事例発表① 『長田救命体操』 神戸市長田消防団 藤川 美穂子氏 (神戸市長田消防団副団長) 『難防災ソング エブリデイ BOSAI』 神戸市灘消防団 下西 藍子氏 (神戸市灘消防団分団長) |
| 13:15 | 事例発表② 『～私たちの活動～「防災・減災への道」』 小野市消防団 サンフラワーズ119 佐藤 穂念氏 (小野市消防団副団長) |
| 13:35 | 事例発表③ 『防災ソングで防火・防災啓発～きつと大丈夫!～』 川西市消防団第11分団チェリーファイアー 松浦 美幸氏 (川西市消防団分団長) 加藤 英樹氏 (川西市消防団副団長) |
| 13:55 | 休憩 |
| 14:10 | 報告 『消防団幹部候補中央特別研修へ行こう!!』 三田市消防団 三田ファイヤーレディーズ 樽口 知加氏 (三田市消防団女性班副班長) |
| 14:30 | 講演 『消防団が創る未来(あした)の防災』 谷口 由美子氏 (元東京消防庁丸の内消防署長) |
| 15:25 | 閉会のことば 濱田 百合子氏 (尼崎市消防団副団長) |
| 15:30 | 閉会 |



神戸市長田消防団 「長田救命体操」



川西市消防団第11分団チェリーファイアー発表



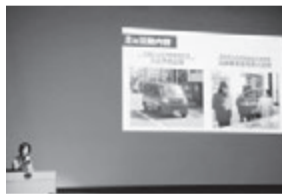
挨拶：兵庫副知事 金澤和夫氏



挨拶：兵庫県消防協会会長 岸谷義雄氏



小野市消防団女性分団サンフラワーズ119 活動事例発表



神戸市灘消防団「難防災ソング エブリデイBOSAI」



三田市消防団女性班班長 樽口知加氏 研修報告



閉会のことば 尼崎市消防団部長濱田百合子氏



元東京消防庁丸の内消防署長 谷口由美子氏 講演



開会

「住宅防火・防災キャンペーン」の実施 ～敬老の日に「火の用心」の贈り物～

全国的住宅火災による死者数は、人前後の高い水準で推移しており、このうち六五歳以上の高齢者が約七割を占めています。

高齢化の進展とともに、住宅火災による死者のうち高齢者の占める割合が増加していることから、消防庁では、「敬老の日に「火の用心」の贈り物」をキャッチフレーズに、改めて高齢者に火災予防を注意喚起するとともに、高齢者に住宅用防災機器等をプレゼントすること等を呼びかける「住宅防火・防災キャンペーン」を実施しています。

この機会に、いざという時に備えて、身近な高齢者に住宅用火災警報器や住宅用消火器、防災品などの住宅用防災機器等をプレゼントされてみてはいかがでしょうか？

実施期間 令和元年九月一日（日）～九月二一日（土）

「救急の日」及び「救急医療週間」

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急業務及び救急医療に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識高揚を図ることを目的に、昭和五十七年に定められ、以来、九月九日を「救急の日」、この日を含む一週間（日曜日から土曜日まで）を「救急医療週間」としています。

期間中、全国各地において、消防庁、厚生労働省、都道府県、市町村、全国消防長会、公益社団法人日本医師会、一般社団法人日本救急医学会、その他関係機関の協力により、各種行事が開催されました。

【救急の日】
令和元年九月九日（月）

【救急医療週間】
令和元年九月八日（日）～
九月一四日（土）



住宅防火・防災キャンペーン
平成29年 9月1日(金)～21日(木)

敬老の日に「火の用心」の贈り物

住宅用火災警報器
すべての住宅に設置が必要な住宅用火災警報器。電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないよう、定期的に作動確認することが大切です。

住宅用消火器
いざという時に備えて住宅用火災警報器等(住宅用火災警報器・住宅用消火器・エアソール式簡易消火具・防災品など)を身近に備えましょう。

防災品

消防庁
各道庁 防災・防災ポータル

住宅火災による死者数と高齢者の割合
平成29年 70.5% (65歳以上)

キャンペーンポスター



救命の連鎖 お見知りおきを！

その一 早期認識と通報
あわてず、まらに119番！

その二 心停止の予防
初期症状をお見逃しなく、不慮の事故にご用心！

その三 心肺蘇生とAED
専門家への搬送しおきなく

その四 救急隊・医師へ
救命講習の受けつけは随分の消防署にお問い合わせください。

9月9日は救急の日 救命講習へのご参加をお願いします。

救命の連鎖
心停止の予防 → 早期認識と通報 → 心肺蘇生とAED → 救急隊・医師へ

救急車の適正な利用をお願いします。

【救急の日 2019】
消防庁 消防庁本部
消防庁 消防庁本部
消防庁 消防庁本部

救急の日ポスター



「防災まちづくり大賞」は、阪神・淡路大震災を契機に平成八年度に創設され、地域に根ざした団体・組織等、多様な主体における防災に関する優れた取組、工夫・アイデア等、防災・減災に関する幅広い視点からの効果的な取組等を表彰し、広く全国で紹介することにより、もって地域に

「第二回防災まちづくり大賞」の募集について
消防庁

【防災まちづくり大賞とは】
阪神・淡路大震災や未曾有の大災害となった東日本大震災等、近年の大規模な災害の教訓を踏まえて、全国各地で防災対策の強化を図るためのさまざまな取組が行われています。防災力の向上を図るためには、防災につながる優れた事業を実施することはもちろんのこと、まちづくりや住民生活等においても防災の視点を盛り込むことが重要であり、防災に関するハード及びソフトの工夫・アイデアが防災対策の充実や防災意識の高揚等に大きく寄与するものです。

【応募方法】
「防災まちづくり大賞」をより多くの方々に知っていただき、優れた取組の掘り起こしを図るため、都道府県の推薦による応募のほか、自薦による応募を受け付けます。各地域で結成されている自主防災組織等、小・中学校等の教育機関をはじめ、様々な組織・団体からの応募をお待ちしております。

なお、応募手続きについては、消防庁ホームページを参照してください。

【消防庁URL】
<https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/ikusei002.html>



『姫路市 全八消防団の一翼を担う』

姫路市香寺町消防団

姫路市は播磨地方、瀬戸内海に面し、面積五四三・三五平方キロメートル、人口約五三万人。世界遺産・国宝姫路城でも全国的に有名な市です。姫路市香寺町は、旧香寺町が平成一八年三月、姫路市に編入合併されたものです。姫路市の消防団は市内八つの消防団（姫路東、姫路西、飾磨、網干、家島町、夢前町、香寺町、安富町）から構成されていて、分団は七二分団、団員は約三三二〇名です。

その中で、我々姫路市香寺町消防団は、姫路市内の北部地域に位置する旧香寺町を活動エリアにしています。姫路市香寺町消防団の管轄は旧の香寺町で面積三一・五二平方キロメートル、エリア内人口は約二万人。我が団の構成は、中寺、香呂、香呂南の三分団、団員数二四〇名。消防車両は各分団に自動車ポンプを搭載した消防車を一台所有。各分団には分団車庫が新設（分団再編時平成二二年度）され消防車や消防ホース、消防器具を保管、管理しています。

姫路市の消防団全体としての活動は、出初式、防災訓練、幹部講習会、正副団長会議など。香寺町消防団の主な活動として団員教育訓練、水防訓練、



水防訓練実施中！

六月一六日（日）姫路市中播消防署香寺出張所北広場に於て久斗団長以下八〇名が集結し中播消防署職員指導の下、本年度はせき板工法と月の輪工法の水防工法を実施しました。



香寺町花火大会に向けて

訓練では全員で基本となる土のうを約五百個作成ののち、それぞれの工法に取り掛かり、出来上りを団本部幹部に報告するというものでした。訓練は約三時間。初夏の暑い中、指揮、伝達、行動など消防人らしく自覚を持った動きが出来たと講評をいただきました。本年度からは水防訓練でも座学の時間を設けて水防の基礎知識の習得に努めました。

香寺町夏祭り花火の警備 八月三日（土）香寺総合運動公園を会場として夏祭りが開催されました。会場から八〇〇メートル東の道路上で、打ち上げ花火があり、その花火の火の粉による火災防止と立入禁止区間の確保のために出動しました。午後五時、三分団到着。車両三台 出動人員四〇名。団長の指示を受けてすぐに、水源を確保し、それぞれ指定の花火の周辺域に放水を開始。一時間の放水を完了後、それぞれの場所で、人や車両の進

『郷土の誇り 多可町消防団』 多可町消防団

多可町は、日本一の酒米『山田錦』、日本一の手すき和紙『杉原紙』、『敬老の日』発祥の地です。平成一七年一月一日に旧加美町、旧中町、旧八千代町の三町が合併して多可町が誕生したことを機に、平成一八年に加美町消防団、中町消防団、八千代町消防団が合併して多可町消防団が発足しました。「郷土の誇り 多可町消防団」を合言葉に、地域の防人として消防団活動に取り組んでいます。多可町消防団の活動をいくつか紹介させていただきます。

■ 消防初出式

毎年、四月のはじめに実施入のないように道路を封鎖、そのまま二〇時三〇分の花火開始を待ちました。花火は二一時に終了。その後、火の粉落下地点を点検し、無事を確認、消火器具撤収を行いました。同時に夏祭り会場の階段付近で雑踏警備を実施しています。

■ 消防初出式

ここでは、消防団員の姿が多くの地域住民の目にふれ、香寺町消防団の存在をアピールでき、同時に、参加した消防団員も地域に貢献していることを再認識できる場となっています。

姫路市香寺町消防団は、今後も姫路市内の全八消防団の一翼を担い、責任ある行動をし、市民の安心、安全のため地域住民の期待に応えられる消防団として、久斗団長のもと団員皆が一致団結、精進してまいります。

練を実施しています。この訓練は、町・消防団・自主防災組織・福祉施設等の関係機関が連携した訓練を実施し、自主防災組織の活性化と、関係機関と消防団との連携強化を推進し、地域防災力の向上を目指しています。

■ 消防操法大会

多可町は、県大会等の上位大会が実施されない年度においても、全国消防操法実施要綱に基づき消防操法大会を、毎年実施しています。機械器具の基本的操作の習得、消防団の士気高揚を目的とし、休日、昼夜問わず日々訓練に励んでいます。過去には、県大会へと駒を進めた実績があります。

■ 隣接地消防団・消防署合同訓練

春季火災予防運動期間中に於いて、林野火災を想定した消防団と常備消防との合同訓練を実施しています。団長をはじめ、各分団長の具体的かつ的確な指示、機関員及び隊員の基本的送水要領、ホース延長等の基本的動作を再確認しながら、常備消防との連携強化を目的に取り組んでいます。



多可町消防操法大会の様子

■ 福祉施設との合同訓練及び視察

大規模な福祉施設での訓練を通して、消防団と施設職員との連携を密にし、有事の際に初動体制から即座に協力体制の確立を図るとともに、地元住民の方々に安心・安全を提供できるように取り組んでいます。

■ 防災訓練

毎年九月の「防災の日」にあわせて、町内全域で防災訓練



隣接地消防団・消防署合同訓練の様子

■ 消防団幹部・新入団員訓練

この訓練では、新入団員の



幹部・新入団員訓練の様子



水害に備えた水防訓練の様子

この他にも、水害に備えた水防訓練、夏祭りの警戒や年末警戒、秋季・春季火災予防運動期間中における防火訓練及び防火パレード、定期的に機械器具の点検及び講習会を実施するなど、多可町消防団は、郷土愛護の精神を強く持ち、地域住民の方々の友好な信頼関係を築いていきたいと思います。

わが町の団長さん

「安心・安全なまちづくりを目指して」

高砂市消防団

伊藤 定雄



高砂やこの浦舟に帆をあげて」と古くからめでたい謡曲「高砂」(世阿弥作)で知られる高砂市は、兵庫県南部播磨平野の東部に位置し、人口約九万人、面積が三四・三八平方キロメートルの比較的小さな市です。

当市の特徴は、歴史的な文化に加え、南部は瀬戸内播磨灘、北西部には播磨富士と呼ばれる高御位山、東部には一級河川の加古川があり、海・山・川と自然豊かな一面もあります。

高砂市消防団は、団本部及び七分団、定員六七五名で構成され、消防ポンプ自動車七台、団本部に資機材搭載型車両一台、防災活動車一台及び小型動力ポンプ三二台で活動しています。

伊藤団長は、昭和五八年四月一日に入団され、分団長、副団長を歴任後、平成三二年四月一日、第八代高砂市消防団長に就任されました。団長就任以来、災害出動に加え、毎月開催される幹部会議や、消防団の各種行事、訓練には必ず出席し、団員はもとより地域住民からも厚い信頼を寄せられています。普段

はとても温厚で、誰とでも笑顔で接される優しい人柄ですが、いざ災害となると消防団員をまとめ上げ、的確な指示により安全・確実・迅速な活動を実現しています。日々変化していく社会情勢に対応し、地域住民のニーズに合った活動を行っていくとともに、団員どうしの繋がりを大切にした消防団を目指し邁進されています。

「住民の安全・安心を守る消防団」

播磨町消防団

佐伯 達也



播磨町は明治三二年四月以来七〇余年の永きにわたり親しまれてきた兵庫県下で最後の村「阿閉村」から、昭和三七年四月一日をもって町制を施行しました。現在の人口は約三四、六〇〇人で、消防団員は女性分団を含む一二分団三一人です。

佐伯団長は、昭和五八年に二四歳で播磨町消防団に入団され、一年間団員として活動されました。

その後、平成七年四月に消防団副団長に任命され二四年間活動を行い、今年の四月から播磨町消防団の団長に就任されました。今後発生が予測される南海トラフ大地震に備えて、団員

が安全で的確にどのような対応をとればよいかを考え、取り組んでおられます。東日本大震災では、団員が活動中に命を落とされた事例がたくさんありましたので、播磨町消防団は、南海トラフ大地震では地震発生後一時間のみ避難誘導などを行い、津波が到達する前(津波到達予想時間は、地震発生後一〇分)に団員も避難するように指導しておられます。

今後「火災や自然災害から住民の生命財産を守る」という消防団の使命を念頭に置き、「安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指し、播磨町消防団本部並びに一二分団が一枚岩となって活力と魅力のある消防団づくりを進めていくとともに、住民にお一層信頼され、感謝される消防団にしていきたいと考えています。

これからも皆様のご支援及びご協力を賜りますようお願いいたします。

「メリハリのある消防団活動」

稲美町消防団

中本 有馬



稲美町は兵庫県南部の東播磨地域にあり、神戸市、加古川市、明石市、三木市に隣接しています。消防団は合併により稲美町が誕生した後、昭和五一年に発足しました。

消防事務は加古川市に委託していますが、今でも自分たちの町は自分たちの手で守るという意識が強く、消防団の活動がとても活発です。稲美町消防団は、六分団四三部で構成され、団員八四〇人余りが所属しています。中本団長は昭和六一年に稲

美町消防団に入団されました。班長、部長、副分団長、分団長を歴任し、平成一二年に副団長に任命され、今年の四月から団長に就任されました。常日頃から「交流する時は楽しく、災害時は迅速に行動するメリハリが重要である」と話されています。

さて、稲美町消防団は、日々の消防器具の点検や訓練による火災への備えに加え、ため池の決壊に備えた水防訓練を実施しています。

また、兵庫県最大のため池「加古大池」で実施される花火大会の警備や地元の夏祭りなどにも積極的に協力し、地域に密着した活動を行っています。毎年三月から四月にかけては、操法大会に向けて遅くまで町内五つの小学校に分かれて熱心に練習を行っています。

これからも稲美町消防団は、地域防災の要として消防本部と連携しながら責務を果たしていきたいと思っています。

われら若手消防団員

～消防団活動を通じて～

南あわじ市消防団 広田分団
楠原 靖人



私は、平成二四年四月に南あわじ市役所に就職したことをきっかけに、神戸市須磨区から南あわじ市にやってきました。そして、縁あって南あわじ市の方と結婚し、住居を構えることになりました。

ある日、地元分団の方のお誘いにより、南あわじ市消防団に入団することにしました。淡路の事もよく知らない中、ましてや消防団という存在は、話では聞いたことがありましたが、実際どんな活動をしているのか、わかりませんでした。

今年の四月に入団して、五月に操法大会の選手に選ばれました。操法はおろか、消防団活動さえ分からない私に、地区幹部の方々、

同じ分団の方々が、夜遅くまで何度も何度も丁寧に操法の動作を教えてくださいました。

結果は方面予選会で二位でした。けれど、操法の練習を通じて、消火活動に関する基本的な技術を取得できました。なにより島外から移り住んできた私にとりては、地域とのつながりもでき、素晴らしい仲間とも出会えたので、消防団に入団して本当に良かったと思います。

これからも、分団の方々にいろいろと指導していただきながら、訓練と経験を重ねて、いつ発生するか分からない火災や自然災害に對して、微力ながらも貢献できるように頑張りたいと思います。

がんばってます、女性消防団員

「心肺蘇生法の普及」を目指して

加古川市消防団

「加古川リバーエンジェルズ」

副分団長 石坂 純子

私たち加古川市消防団女性分団は、加古川市消防団の一九番目の分団として、平成一八年四月に団員数二〇名で発足しました。メンバーの増減を経て、現在は一七名で活動しています。

主な活動の一つとして、幼稚園での火事・地震等の避難訓練の指導を行っています。阪神・淡路大震災から二五年が経とうとしています。園児はもとより、保護者の中にも震災後に生まれて震災を経験していない方が増えています。震災の記憶を風化させないためにも、紙芝居や着ぐるみなどを使って楽しく訓練しながら、園児だけでなく保護者に対して備えの大切さを指導しています。

最近、特に力を入れているのは応急手当の普及啓発です。女性分団は全員が応急手当普及員の資格を取得することを目標としており、現在、一四名の女性団員が資格を取得しています。四年前からは、女性分団が主体となって男性消防団員を対象とした普通救命講習を二回実施、一人でも多くの方に心肺蘇生の技術を身につけてもらえるよう、わかりやすく丁寧に指導していきたいと思っています。

今後女性ならではの視点・気づきを大切に、活動の場を広げていきたいと思っています。



男性消防団員に一次救命処置の重要性を説明する石坂副分団長

地域のお知らせ

新温泉町

海・山・温泉 人が輝く 夢と温もりの郷

山陰海岸ジオパーク 日本屈指ともいわれる壮麗な海岸美、大自然が創り出した神秘的な傑作にせまる遊覧船の旅を楽しめます。山陰海岸国立公園の中にある海水浴場は、美しい景色と澄んだ海が自慢です。町内には三つの海水浴場があり、キャンプを楽しむながら、目前に広がる日本海で海水浴を楽しめます。

す。食事や、宿泊施設も完備、冬にはスキー場として楽しめます。

日本海に沈む夕日とイカ釣りの漁の漁火に感動いただけると思います。



諸寄の漁火

シワガラの滝 洞窟内

焼きちくわ

山陰海岸国立公園・獅子の口岩

○上山高原 氷ノ山後山那岐山国定公園に指定された標高七五〇〜九〇〇メートルの高原状の台地に位置する上山高原。この一帯は、ブナの原生林やスキ草原が広がり、イヌワシやツキノワグマ、ザゼンソウやタジマタムラソウなどの希少動植物が生息・群生する地域として、学術的にも価値の高いエリアです。

○兵庫県立但馬牧場公園 リニューアルオープンした「但馬牛博物館」や、「小動物舎」農産加工施設などがあり、年間を通して様々なイベントを開催していま

温泉

○湯村温泉 湯村温泉の歴史は古く、嘉祥元年



上山高原・ショープ池紅葉



但馬牧場公園



薬師湯

(八四八)年慈覚大師によって開湯されたと伝えられています。荒湯(あらゆ)と呼ばれる泉源では、摂氏九八度の高温泉が毎分四七〇リットルも湧出しており、地元の人や観光客が卵や山菜などをゆでる姿も見られます。

○浜坂温泉

昭和五三年、消雪用水源の掘削ボーリングで工事中に突然噴出した温泉。各家庭を全長一八キロメートルのパイプでつなぐ「みんなげ湯の町システム」が整備され、一般家庭への配湯戸数は全国一を誇っています。旅館はもちろん、家庭でも「蛇口をひねれば温泉に入ることができる夢のような温泉です。」



浜坂県民サンビーチ

○七釜温泉

昭和三〇年に井戸を掘っていて偶然に見えられた温泉で、当時は田園の中に浴槽が作られた露天風呂でした。現在では、公衆浴場がオープンし、源泉一〇〇パーセントかけ流しのお湯が人気です。

【浜坂エリア】

浜坂温泉郷を中心とした海と温泉のまち。名産には松葉ガニ、焼きちくわ、わかめなど潮の香、磯の味覚が旅情を深めてくれます。海岸めぐり、海水浴、湯治療など年間を通じて楽しめます。

【温泉エリア】

湯村温泉を中心とした自然豊かなまち。上山高原でのトレッキングを楽しんだあとに、湯村温泉に入り疲れをいやしてみたいかがでしょうか。

丹波市

「丹波市健康センターミルネ」が開所しました

医療・健康・介護の新拠点に

令和元年7月1日、診療所や健診センターなど身近な医療を提供する「丹波市健康センターミルネ」と、地域医療の中核を担い、高度な医療を提供する「兵庫県立丹波医療センター」が開所しました。新たに丹波地域の医療・介護・健康増進に取り組み拠点として、両施設が地域医療の充実を目指す。

毎日の健康生活をサポート

健康センターミルネは、これまで柏原赤十字病院が担ってきた機能を引き継ぎ、身近な病院としてミルネ診療所、予防医療を提供する健診センター、在宅介護を支援する訪問看護ステーションなどが整備されました。

また、市の保健センター、高齢者あんしんセンターなどが移転し、医療・介護の垣根を取り払って、包括的に毎日の健康生活をサポート



丹波市健康センター ミルネ



兵庫県立丹波医療センター

トできる体制が整いました。丹波市健康センターミルネ

■所在地／丹波市氷上町石生二〇五九一五

○ミルネ診療所 ☎〇七九五八八―五六七〇

兵庫県立丹波医療センター

■所在地／丹波市氷上町石生二〇〇二一七

■電話番号 ☎〇七九五―八八一五二〇〇(代)

丹波攻め、知ってますか？ 明智光秀ゆかりの地 丹波市

二〇二〇年、明智光秀を主人公とした大河ドラマ「麒麟がくる」の放映が決定しました。

明智光秀といえば、「本能寺の変」や「三日天下」のイメージが強いと思いますが、織田信長の家臣として優秀な働きをしていたこともまた事実です。その功績の一つが「丹波攻め」。その戦場となった場所の一つが、丹波市春日町黒井にある「黒井城」です。時の城主・赤井(荻野)直正が、光秀の前に立ちはたかりました。

●黒井城の戦い この頃、信長は、光秀を総大将とし、丹波攻略を命じたのです。多くの武将が信長の傘下に入ります。その中に有力な武将・波多野秀治もいて、状況は光秀の有利と目されてきました。

しかし、黒井城の戦いが始まると状況は一変。味方の波多野軍が、明智軍を包囲して攻撃したのです。一説では丹波の諸将と直正の間には



下館(現・興禅寺)

協力関係があり、信長に降ったふりをして明智軍を呼び込んだのではとも言われています。「赤井の呼び込み戦法」と呼ばれたこの戦略にしてやられた光秀は、丹波の地から撤退します。この戦いで、直正は「丹波の赤鬼」と呼ばれるようになりまし

●落城その後

その後、光秀は再度、丹波の地に攻め入ります。同じ頃、直正が病没し、黒井城は落城。丹波国が平定されました。丹波国を光秀の重臣である斎藤利三を黒井城主とし、現在の丹波市一帯を統治させます。



「黒井城跡」空撮アーティスト 前田 太陽

利三は黒井城の下館(現・興禅寺)に家族とともに暮らしました。娘のお福は黒井で生まれ、三歳まで下館で育ちました。その後、お福は徳川家光の乳母「春日局」と呼ばれるようになります。

●兵どもが夢の跡

丹波市春日地域の黒井城は、石垣のみが残っている状態です。約四分の登山で城跡まで来てみれば、三六〇度パノラマの絶景が広がっています。条件を整えば、雲海を見ることが出来ます。興禅寺から黒井城跡まで、戦国時代のドラマに思いを馳せてみるのも面白いかもしれません。

なお、興禅寺や黒井城跡登山口までの道中は住宅街になっていますので、お越しの際は近隣住民の迷惑にならないようご留意ください。

（お詫び） 兵庫消防七月号「副会長 退任感謝状贈呈」の記事において、誤記がございました。正しくは、元姫路市姫路西消防団 大塚 秀祐氏 です。 お詫びして訂正いたします。

編集後記

朝夕は暑さがやわらぎ、過ごしやす季節がやってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号は一面・二面に県総合防災訓練、四面に女性消防団活性化大会の様子を掲載しております。参加いただいた皆様、お疲れ様でした。

また、三面には全国女性消防操法大会へ向けての記事を掲載しております。出場される芦屋市消防団の皆様におかれましては、存分に力を発揮してきてください。事務局一同、応援しております。

今月号も紙面作成にあたり各地区から多数の寄稿をいただきました。誠にありがとうございます。

台風シーズンが到来し、消防団の皆様が出勤される機会が増えることと思います。活動時には自己の安全管理にも十分にお気をつけください。